

The Expert



令和元年10月10日発行 ● No.120 ●

● 小児医療センター(小児科) 澤 友歌 助教 (平成18年・東邦大学卒)

小児感染症の「診断から治療まで」

小児の診療において、その半数以上が感染症関連です。その多くは一過性に改善するウイルス感染症である一方、重症化しかねない感染症が隠れていることがあります。小児科では、現病歴と診察所見を重視し、必要最低限の検査で診断をし、患児に負担の少ない診療を目指しています。重症感染症では、治療を行うと同時に、遺伝子検査等も駆使して診断をしてきました。新興感染症であるパレコウイルス感染症や、本邦でも稀な乳児ポツリヌス症など、診断がつくことで、治療の見通しが立ち、よりよい医療につながっています。

抗菌薬適正使用

2015年の世界保健総会において、薬剤耐性 (AMR) に関するグローバル・アクション・プランが採択されました。医療者の間でも抗菌薬使用に関する意識が変わってきていると感じます。当院では感染管理部を中心に耐性菌のサーベイランス、広域抗菌薬の長期使用に対する介入を行っています。小児病棟では、入院中に使用される抗菌薬のモニタリングを行い、適切な患児に、適切な抗菌薬が、適切なタイミングで投与されるように、担当医と相談しながら治療を選択しています。

院内感染対策

感染症には流行するものがありますが、院内でも特定のウイルス感染症や耐性菌が広がる場合があります。原因病原体により、接触感染、飛沫感染、空気感染に応じた対策を講じています。感染の広がりをできるだけ早く察知し、最小限に止めるよう、感染管理部とともに日々努めています。しかしながら、入院制限が不可避となり、地域の先生方にご迷惑をおかけすることがあります。今後一層の感染対策に尽力致しますので、何卒ご理解いただけますようお願い致します。

インバウンド感染症

近年、外国人の居住が増えたことから、大田区でも、普段あまり触れることがなかった感染症を診ることがあります。また、東京2020大会を来年に控え、インバウンド感染症が発生する可能性も示唆されています。タイやカンボジアにて熱帯地域で発生する感染症を学んだ経験をもとに、結核、デング熱、マラリア、HIV感染症、旅行者下痢症、等の診療を行ってきました。渡航歴のある発熱や発疹、原因不明の感染症などの疾患でお困りのことがありましたら、是非ご相談下さい。

その他の感染症、ワクチン関連のご相談も受けております。地域の先生方と共に、患者さん中心の医療を提供していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

● 診療予約

診療のご予約は、下記までご連絡下さい。
診療日・診療時間をご案内いたします。

● 診療日

澤 友歌 助教：再診：水曜日 午前

医療機関専用電話

パートナー

03-3762-6616 (直通)

(受付時間 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~14:00)

(休診日:第3土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始・創立記念日6/10)



東邦大学医療センター大森病院
Toho University Omori Medical Center
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
03-3762-4151 (代表)
<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>
発行元：地域医療支援センター